

令和6年度住民による避難力強化支援事業報告書

■事業の目的

自主防災組織を対象として、住民の避難行動の理解を一層推進し、地域防災力の強化を図るため、自主防災組織が行う地区防災計画や災害・避難カードの作成等を支援する。

■事業実施地区参加世帯、協力団体等

○阿久根市牛之浜地区（構成 17 自治会）

- ・ 213 世帯、対象人口 286 名（自治会未加入者を含む）
- ・ 協力団体 消防団、民生委員
- ・ 参加住民人数 6/26（水）9 人 8/26（月）18 人 9/30（月）26 人
12/4（水）35 人 1/5（日）13 人

○宇検村湯湾地区（自治会）

- ・ 253 世帯、対象人口 456 名（自治会未加入者を含む）
- ・ 協力団体 消防団、民生委員、青年団等
- ・ 参加住民人数 7/4（木）20 人 7/5（金）3 人 8/8（日）15 人
9/25（日）20 人 11/22（金）19 人

■事業実施手法

事業の目的を達成するため、地区住民への自然災害リスクの説明、ワークショップの開催、地区防災計画案、個別避難計画案の検討と策定を一連の流れとして、以下の通りに実施した。

- 1、事業実施地区に最適化された取り組みとするため、自然災害や社会構造、地域特性について、地形や災害履歴、地区に関連する人口統計、地域社会資源などの事前調査を行った。
- 2、対象地区の行政担当者や地区のキーパーソン（自主防災組織や自治会組織役員、協力団体等）に事前説明を行った。
- 3、調査結果を基に、地区住民や関係団体等に対して当該地区に特化した防災説明会、鹿児島地方気象台の支援による防災気象講座を併催し、対象地区における自然災害リスクや避難行動上の社会的リスクを提示し、地区防災の活性化、ならびに各主体との連携の必要性理解を促進した。

- 4、 地区防災計画を作成するためのワークショップ活動を通して、自主防災組織（地区住民）と消防団や民生委員といった各主体との連携（ネットワーク化）を図るとともに、要配慮者の抽出と支援者の掘り起こしを行った。

また、ワークショップにおけるリスクコミュニケーションを通して、自助としての備蓄や避難経路の把握、互助・共助としての役割分担や避難所の自主運営と連携、防災訓練や備蓄計画、ならびに地区防災計画や個別避難計画の必要性の理解を促進し、自主防活動の促進、地区住民の防災・減災意識の向上を図った。

○ワークショップの内容

- ・災害図上演習：DIG
- ・まち歩き、および要配慮者宅訪問（宇検村での事業は夜間のみの開催であったため実施せず）
- ・自然災害経過想定演習：SIM（タイムラインを基にしたシュミュレーション）

- 5、内閣府の地区防災計画策定ガイドラインに基づき、地区の防災上の課題を分析し、地区住民が連携して取り組む地区防災計画の素案を作成。これを基に地区住民と検討を行い、地区防災計画（個別避難計画、避難カードを含む）を策定した。

- 6、住民が抽出した要配慮者については、個別避難計画個票、名簿を作成した。作成段階では、要配慮者本人や家族、支援者とのリスクコミュニケーションによって、防災意識を高め、避難のタイミングと避難先を明確化して、早めの避難行動を促すことができた。また、個別計画に親族や支援者、かかりつけ医等の緊急連絡先を記載することで、関係機関と情報共有できるようにし、避難行動要支援者名簿に紐付けることを可能とした。

- 7、作成した地区防災計画に対する理解を深め、実効性のある自主防災活動につなげるため、地区住民が多く集まる機会を捉えて、地区防災計画の説明会を実施する予定。

※ 阿久根市、宇検村の事業とも、3～4月頃の地区の定期総会に合わせて実施したいとの意向があり、当法人も出席して説明する予定。

■地区防災計画について

成果物としての地区防災計画は、地区の概況と想定される自然災害、避難計画、訓練計画、備蓄計画を柱とした、組織編成や役割分担、各種書式、自主防として作成した防災マップの内容で構成される。このほか、自主防の減災の活動タイムラインの考え方を取り入れた計画とした。

- 1、地区防災マップについては、地区住民が図上演習で示した情報をベースとして、公的

機関が示した情報を加えたものとした。

- 2、住民が作成したタイムラインは、実際の自主防活動に活用できるようにマニュアル化したものを掲載した。
- 3、各種書式はコピーして実際に利用できる形式とし、個別避難計画個票、避難カードについては記入後、情報共有のためのツールとして利用できる形式を採用した。

■事業実施に伴う活動

- 1、各地区の行政担当者、自主防災組織、自治会組織などの関係者との連絡調整。
- 2、現地の災害履歴や地形、社会基盤整備状況等の調査を基にした、自然災害リスク、および社会的要因リスクの説明用スライド等各種資料の作成。
- 3、講演会の実施
 - 気象台による自然災害リスク説明
 - 本事業の説明
- 4、ワークショップの開催
 - まち歩きによる危険個所の把握
 - DIG による地区の自然災害と防災資源、要配慮者の把握
 - KJ 法によるタイムライン作成（自主防活動、避難所運営、個別避難）
 - 抽出された要配慮者への個別避難計画策定シュミュレーション
 - 個別避難計画個票、要配慮者名簿のひな形提示と民生委員、自治会組織への計画策定依頼（両地区の個人情報開示承諾を得た対象者について個票を別添）
 - 地区防災計画素案の検討会の開催
 - 地域防災計画との整合性確認（阿久根市、宇検村担当部署へ依頼）
 - 計画書受渡し時の今後の活動計画について意見交換

■事業成果

- 1、宇検村の事業においては、湯湾地区での津波対策のリスクコミュニケーションの成果として、垂直避難が意識され、津波避難ビルの活用が共有認識された。
- 2、阿久根市の事業では、避難場所として、集落センターの活用が議論され、備蓄や避難場所運営の活動が促進された。また、自宅避難の正しい考え方も共有された。

- 3、住民が自ら地区防災計画の作成に取り組むことで、自然災害リスクの共通認識をもって、減災活動に取り組む意識が芽生え、地域ぐるみで協働して防災・減災を目指すことが可能となった。
- 4、両地区とも消防団員、民生委員の参加が確認されており、地域との連携が促進された。
- 5、ワークショップを行う過程で、地区住民が自ら災害時要配慮者と支援候補者を抽出することで、普段からの見守りが必要であるとの認識が生まれ、地域福祉の面からも副次的効果が表れている。両地区とも民生委員による見守り名簿を基にした個別避難計画、要配慮者と支援者の名簿が完成しており、迅速な避難体制構築が実現した。
- 6、事前の備えから避難、避難生活、復興に至るまでの防災・減災のイメージが、文章や図表により可視化され、より具体的な活動に繋がられるようになった。

■事業を行うことによる防災上の効果

- 1、地区の状況に応じた災害を想定し、防災・減災についての解説や多種のワークショップを集中的に、継続して支援を行うことで、地区の防災・減災について可視化することができるため、自然災害リスクに対する考え方や理解が深められた。
- 2、計画策定過程において、地区住民等が自助、互助、共助による防災・減災の必要性、重要性を共有するとともに、自主防災組織の活動が活性化された。
- 3、計画策定過程において、地区内の課題が可視化され、普段からの自主防災組織活動が、自治組織による地域活動や福祉活動と何ら変わらないことが再認識された。
- 4、計画策定過程において、住民が漠然と抱えていた不安や災害に対する対策や対応に関する疑問の解決に至った。
- 5、地区防災計画によって、地区防災計画や個別避難計画を年に1回の見直し、防災訓練の実施が規定され、自主防災活動の形骸化や活性低下の予防のみならず、災害弱者に対する関係者間の支援情報共有が可能となった。

以上のことから、自助、互助、共助、および公助との組み合わせによって、住民による避難力の底上げ強化という目的を、以下の通りに達成できたと考える。

- ・自助：各自が計画書式を完成させ、災害に備えた個別の防災計画を作成し、確実な避難

行動につなげる。

- ・互助・共助：上記情報を共有することで、地区における避難力強化が図られ、地区全体の防災・減災力の向上が図られる。
- ・公助：個別避難計画を行政の情報と紐付けることにより、災害弱者対策や福祉避難所対策が容易になる。

■事業を行うことによる防災上の課題

- 1、自主防災組織が計画を基として活動を継続するにあたり、地区の人口減やキーパーソンの高齢化は避けて通れず、行政、消防等の防災機関のフォローアップとともに、県が養成している地域防災推進員の活用が求められる。
- 2、個別避難計画作成にあたり、個人情報保護の考え方を十分に説明し、情報の遮断を回避し、必要な個人情報を防災・減災活動に資する必要がある。

■今後の動き

阿久根市牛之浜地区、宇検村湯湾地区の両地区とも、4月に実施する地区の定期総会に合わせて地区防災計画説明会を実施したいとの意向があり、当法人も出席して説明する予定。

阿久根市と宇検村では、ともに今回の事業の取り組みをモデルとして、各地区での地区防災計画や個別避難計画策定を推進していく予定である。特に宇検村では、各集落（シマ）の自主防災活動に強い意欲を示しており、村としても、地区防災計画策定の支援を進めていく意向を示している。

■阿久根市牛之浜地区自主防災組織事業経過

<p>6 月 26 日</p>	<p>事前調査：アユダール 1 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛之浜地区周辺を実踏し、自然災害リスクの評価と社会資源の位置など基礎情報を収集 <div data-bbox="392 405 724 651">  </div> <div data-bbox="743 405 1075 651">  </div> <div data-bbox="1094 405 1430 651">  </div>
<p>18 時 30 分～</p>	<p>事前説明会：牛之浜集落センター</p> <p>区長、住民代表 9 名、市職員 2 名、県職員 3 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の概要と計画策定の意義を説明 <div data-bbox="662 864 1189 1256">  </div>
<p>8 月 26 日 18 時 30 分～</p>	<p>防災研修会：牛之浜集落センター</p> <p>地区住民 18 名、市職員 2 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DIG ワークショップによる自然災害リスク、防災資源の把握と避難要配慮者の抽出 <div data-bbox="406 1525 896 1883">  </div> <div data-bbox="927 1525 1417 1883">  </div>
<p>9 月 30 日 18 時 30 分～</p>	<p>防災研修会：牛之浜集落センター</p> <p>地区住民 20 名、市職員 2 名、気象台 2 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害想定ワークショップ(KJ 法タイムライン作成)

- ・ 気象台による自然災害リスクの説明
- ・ 民生委員への個別避難計画策定手順を指導



11 月 21 日
19 時～

地区防災計画案検討会：牛之浜集落センター
住民 32 名 市職員 2 名同席

- ・ これまでのワークショップのデータを分析・検討して防災計画案を提示
- ・ 住民による計画案の検討



1 月 5 日
9 時～

まち歩き、個別計画策定検証：牛之浜地区周辺
地区住民 13 名（個別計画対象者含む）、市職員 1 名同行

- ・ まち歩きを行い、地区防災マップの危険地形を確認、検証
- ・ 今後の自主運営に備えた個別避難計画の策定手順の検証と困難事例の対応法を指導



2 月 20 日

地区防災計画書の引き渡しと今後の予定を協議：牛之浜区集落センター
地区住民（区長）1 名、市職員 1 名

- ・ 地区防災計画書、避難カードの引き渡し
- ・ 来年度の通常総会にて地区防災計画、個別避難計画活用の説明会を当法人が行うよう取り決める



■宇検村湯湾地区事業経過

<p>7月 4日</p>	<p>事前調査：アユダール 1 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇検村湯湾地区周辺を実踏し、急傾斜危険箇所や津波避難経路候補を確認するとともに、社会資源、人口構成など基礎情報を調査 <div data-bbox="376 409 707 654"></div> <div data-bbox="737 409 1066 654"></div> <div data-bbox="1096 409 1425 654"></div>
<p>19 時～</p>	<p>事前説明会：湯湾生活館</p> <p>湯湾区長、他地区役員等 20 名、宇検村職員 2 名、測候所 2 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業説明とスケジュールの確認 <div data-bbox="394 866 888 1234"></div> <div data-bbox="917 866 1407 1234"></div>
<p>7月 5日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名瀬測候所にて阿見地域防災官、他 2 名と事業内容協議
<p>8月 8日 19 時～</p>	<p>防災研修会：湯湾生活館</p> <p>各種住民団体代表 15 名、村職員 1 名、気象台 3 名、奄美市 1 名、瀬戸内町 2 名、大和村 1 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象台による自然災害リスクの説明 ・DIG ワークショップによる自然災害リスクや防災資源の把握と避難要配慮者の抽出 <div data-bbox="367 1715 703 1962"></div> <div data-bbox="734 1715 1067 1962"></div> <div data-bbox="1098 1715 1434 1962"></div>

9月25日
19時～

防災研修会：湯湾生活館

各種住民団体代表等 20 名、村職員 3 名、気象台 3 名

- ・気象台による、時系列データに基づく台風を事例とした災害講話
- ・タイムラインワークショップによる、災害の時間経過（フェイズ）ごとの個人や自主防としての活動や必要な資源、避難所の対応についてリスクコミュニケーションを行い、KJ 法によるタイムラインを作成して地区の課題や防災活動の整理を行う。



11月22日
19時～

地区防災計画案検討会：湯湾生活館

住民 19 名 市職員 2 名



- ・DIG、SIM の結果を踏まえて分析した防災計画案を検討し修正案を作成

1月27日

地区防災計画完成報告会：宇検村役場



1月28日付奄美新聞社記事より（別添参照）

- ・2 月中に計画書を全戸配布、4 月末の地区総会で全地区住民を対象に計画説明会を実施予定